

# 市政、経済、文化などの発展に尽力

# 高槻市名誉市民



## 高橋達之助

高槻市出身の衆議院議員として経済企画庁長官、通商産業大臣、科学技術庁長官などの要職を歴任。また、日中経済交流の基礎となるIT貿易を実現させるなど、政財界において数々の偉業を残されました。  
昭和39年(1964年)2月24日逝去



## 山崎旭萃

(本名:永井ハル) 芸術界の発展に大きく貢献。平成7年に芸術家として初の国の重要無形文化財保持者(人間国宝)に認定されました。  
平成18年6月5日逝去



## 村上三島

(本名:村上正一) 書家。独自の書風を確立し、優れた作品を発表するとともに、書壇の発展に大きく貢献。日本を代表する書家として、平成5年に文化功労者表彰、平成10年に文化勲章を受賞されました。  
平成17年11月20日逝去



## 中井啓吉

新しく高槻町ができた際には名誉助役に推薦され、磯村町政を支えました。高槻市制施行後も引き続き助役を務め、昭和20年(1945年)、第2代高槻市長に就任。戦後の復興と住民福祉の増進などに努め、郷土の発展向上に尽くされました。  
昭和41年(1966年)12月29日逝去

### 高槻市が誕生



## 高槻市

合併後の高槻町は京都市と大阪市の中間に位置することから、生産・交通の拠点として急速に発展していきましました。磯村氏と中井氏は、戦時体制下、財政、物資面で困難が予測される中、高槻の一層の発展と福祉増進に向け、市制施行実現に奮闘。昭和18年(1943年)に高槻市が誕生しました。

磯村氏は初代高槻市長に就任。中井氏は助役として磯村市政を支え、のちに2代目市長に就任されました。任期中は、治山治水、道路改修、産業、教育の充実などに取組み、高槻市発展の礎を築きました。

## 先人から受け継いで より住みよいまちへ

市政、経済、文化など、さまざまな分野において、先人の方々の活躍があり、また、市民の皆さまの努力があって、現在の高槻市が築かれています。

今後先人の築いた礎を引き継いで、市民の皆さまとともに言ってきた我がまち高槻がさらに安全で住みやすいまちとなるよう、市民福祉のさらなる向上を目指します。

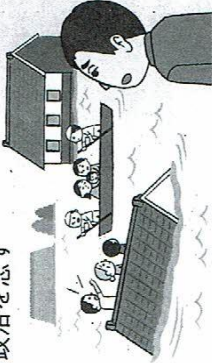
高槻市長 濱田剛史

## 磯村彌右衛門

昭和6年(1931年)、合併後の高槻町の初代町長に就任し、高槻をより発展させるべく、市制施行に奔走し、昭和18年(1943年)に高槻市を発足。初代の高槻市長に就任されました。任期中は、戦時体制下において、市の教育施設や諸施設の整備など、公共の福祉の増進に多大な功績を残されました。  
昭和41年(1966年)4月9日逝去

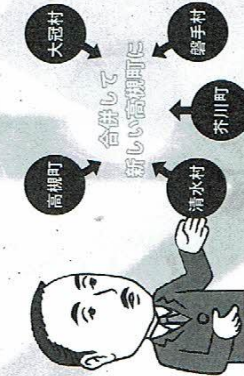


## 大塚切れの被害を目の当たりにし 地方政治を志す



大正6年(1917年)に発生した淀川の大洪水「大塚切れ」による被害を目の当たりにし、当時27歳だった磯村氏は復興に力を尽くしました。この体験から地方政治を志し、大正10年(1921年)、被害が大きかった村の一つ、大冠村の村長に就任しました。

## 高槻町・芥川町・大冠村・清水村・馨手村が合併 新しい高槻町が成立



## 合併をする意義を伝え続け、 住民の同意を得るために奔走

当時馨手村の村長だった中井氏は、合併に対する住民の同意を得るため、その意義の説明に心血を注ぎ、新しい高槻町実現に奔走しました。

## 高槻市の礎を築いた先人

高槻市は昭和18年(1943年)1月1日大阪府内での着目の市として誕生し、今年で市制施行77年目。現在も発展を続ける高槻市ですが、市として誕生するまでには、先人たちのさまざまな奮闘がありました。

合併へ尽力し高槻町長に就任  
昭和3年(1928年)に、新京阪鉄道(現・阪急電鉄京都本線)が開通すると高槻町は急速に発展。昭和6年(1931年)に磯村氏が尽力し、高槻町・芥川町・大冠村・清水村・馨手村が合併。新しい高槻町が成立しました。成立後、磯村氏が高槻町の初代町長に、中井氏が初代名誉助役に就任しました。

問 高槻市長室 ☎ 0747-22222

